

設計のための地質の基礎知識



〈開催日〉2023

1/13 金
13:30~15:30

セミナー名 設計のための地質の基礎知識

定員 500名 参加費 無償

土木学会CPD認定

講義概要

人類は地表で生活しており、様々な建設物のほとんどは地表に作られる。現在地表には様々な岩石や未固結物質が分布しているが、それらは長い歴史を持っており、それに応じた分布と性質を持っている。岩石や未固結物質は様々な名称で呼ばれるが、地質学的な知識を少し持てば、それは名前だけでなく、その背後にある歴史やあるはずの性質なども示す。これらは、面倒な分析や試験を行わなくても、およその見当をつけることができるのである。本セミナーでは、様々な地質について、このような観点からお話しします。

公益財団法人深田地質研究所 理事長 千木良 雅弘 氏(理学博士) プロフィール

1981年から1997年まで16年間電力中央研究所にて、地質調査の実務と研究。
1997年から2020年まで、京都大学防災研究所地盤災害研究部門の教授赴任直後から、日本およびアジア地域の主要な地質災害を調査。
中国四川省、ネパールヒマラヤ、台湾、スイスアルプスで山地の長期的な変形や巨大な山崩れの研究を進めてきた。
2020年3月から公益財団法人深田地質研究所主席研究員、同7月から理事長を務める。

略歴	経歴	学位
1955年	群馬県生まれ	
1980年3月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	修士課程終了
1980年4月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	博士課程進学
1981年3月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	博士課程中途退学
1981年4月~1997年1月	財団法人電力中央研究所	
1997年2月~2020年3月	京都大学防災研究所教授	
2020年4月~	公益財団法人深田地質研究所主席研究員	
2020年7月~	同理事長	

主な著書

- 災害地質学ノート (近未来社) 2018年
- 地質と災害—応用地質の見方考え方— (近未来社) 2016年
- 深層崩壊—どこが崩れるのか— (近未来社) 2013年
- 崩壊の場所—大規模崩壊の発生場所予測— (近未来社) 2007年
- 群発する崩壊—花崗岩と火砕流— (近未来社) 2002年

役職等	職務
1998年~現在	学術誌「Engineering Geology」編集委員
2001年4月~現在	日本地形学連合委員
2011年6月~現在	静岡大学客員教授
2016年~現在	日本技術者教育認定機構認定委員
2022年8月~現在	ハイパーカミオカンデ計画専門評価委員会空洞水槽分科会 委員
2003年~現在	International fellow of SEADPRI-UKM (Southeast Asia Disaster Prevention Research Institute, University of Kebangsaan Malaysia)

受賞	受賞内容
1986年5月	日本応用地質学会論文奨励賞(日本応用地質学会)
1989年5月	日本地質学会研究奨励賞(日本地質学会)
2010年6月	日本応用地質学会賞(日本応用地質学会)
2017年4月	平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(深層崩壊の準備過程と発生場所予測に関する研究)

セミナーのお申込み

株式会社 総合システム セミナー事務局
https://www.sogonet.co.jp/web_seminar/

設計にあたって気を付けないと
いけない地質や現象

〈開催日〉2023

1/20 金
13:30~15:30

セミナー名 設計にあたって気を付けないといけない地質や現象

定員 500名 参加費 無償

土木学会CPD認定

講義
概要

構造物の設計・施工にあたっては、様々な地質の特殊条件に大きく影響されることがある。

これらは一般的な地質学の教科書にはあまり掲載されていないものも多い。

例えば、2021年の熱海の盛土崩壊では、実際には盛土の下の岩石が熱水変質して不透水の粘土になっていたことが大きな要因となっていた。

また、岩石によっては大規模な宅地の造成の後に住宅が変形するような被害をもたらすものもある。本セミナーでは、特殊な地質現象ではあるものの、一般的に起こりうる現象についてお話しします。

公益財団法人深田地質研究所 理事長 千木良 雅弘 氏(理学博士) プロフィール

1981年から1997年まで16年間電力中央研究所にて、地質調査の実務と研究。

1997年から2020年まで、京都大学防災研究所地盤災害研究部門の教授赴任直後から、日本およびアジア地域の主要な地質災害を調査。

中国四川省、ネパールヒマラヤ、台湾、スイスアルプスで山地の長期的な変形や巨大な山崩れの研究を進めてきた。

2020年3月から公益財団法人深田地質研究所主席研究員、同7月から理事長を務める。

略歴	1955年	群馬県生まれ		主な著書	
	1980年3月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	修士課程終了		災害地質学ノート (近未来社) 2018年
	1980年4月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	博士課程進学		地質と災害—応用地質の見方考え方— (近未来社) 2016年
	1981年3月	東京大学大学院理学系研究科地質学専攻	博士課程中途退学		深層崩壊—どこが崩れるのか— (近未来社) 2013年
	1981年4月~1997年1月	財団法人電力中央研究所			崩壊の場所—大規模崩壊の発生場所予測— (近未来社) 2007年
	1997年2月~2020年3月	京都大学防災研究所教授			群発する崩壊—花崗岩と火砕流— (近未来社) 2002年
	2020年4月~ 2020年7月~	公益財団法人深田地質研究所主席研究員 同理事長			
役職等	1998年~現在	学術誌「Engineering Geology」編集委員			
	2001年4月~現在	日本地形学連合委員			
	2011年6月~現在	静岡大学客員教授			
	2016年~現在	日本技術者教育認定機構認定委員			
	2022年8月~現在 2003年~現在	ハイパーカミオカンデ計画専門評価委員会空洞水槽分科会 委員 International fellow of SEADPRI-UKM (Southeast Asia Disaster Prevention Research Institute, University of Kebangsaan Malaysia)			
受賞	1986年5月	日本応用地質学会論文奨励賞(日本応用地質学会)			
	1989年5月	日本地質学会研究奨励賞(日本地質学会)			
	2010年6月	日本応用地質学会賞(日本応用地質学会)			
	2017年4月	平成29年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞(深層崩壊の準備過程と発生場所予測に関する研究)			

セミナーのお申込み



株式会社 総合システム セミナー事務局

https://www.sogonet.co.jp/web_seminar/